

[ 平成20年 3月12日文教委員会-03月12日-01号 ]

◆芝田 委員 おはようございます。ご苦労さまでございます。私は、本日は市立堺高等学校についてご質問いたします。

ご存じのように、紆余曲折がありまして、また新しい高校教育の改革を模索の中で、この4月に新しく市立堺高等学校がスタートいたします。まず、その設置の意義・目的と開校に向けての取り組みの経過をお伺いいたします。

◎三浦 高校改革担当課長 設置の意義・目的、また経過ということでございます。

まず、意義・目的につきましては、社会の急激な変化や少子化が進む中で、時代や社会が求める人材育成、また生徒の進路希望の多様化に対応するとともに、小・中学校での教育成果を受けとめ、発展させることのできる市立高等学校の設置をめざしております。

また、取り組みの経過につきましては、平成18年9月の堺市教育活性化プランを踏まえ策定いたしました実施計画に基づきまして準備を進めてきました。平成19年6月に上程しました設置条例の一部改正により、新たな高等学校の設置が、また同年9月には堺市立堺高等学校と校名を定めております。以上でございます。

◆芝田 委員 それでは、本市が高校教育に求めるものは何か、お伺いしたいと思います。

◎三浦 高校改革担当課長 より多様な生徒が入学する現在の高等学校教育におきましては、時代や社会の変化、また増加する大学進学希望者、そういった生徒のニーズに対応できる教育活動を展開し、生徒が希望する進路を実現させていく、その必要がございます。以上でございます。

◆芝田 委員 新しい年度で、もう前期の試験も終わりました、今度後期ですね、定時制の方が今出願の最終状況もきょうの新聞に載っておりますけれども、新しい高校は、以前の商業、また工業のそういう歴史・伝統を踏まえまして、就職という社会に出る中でいろいろ専門を学んでいくわけですが、今回特に進学にも力を入れるというようなことを聞き及んでおりますけれども、この市立堺高等学校の進学・就職などの進路希望への対応はどのようになっているか、お伺いしたいと思います。

◎三浦 高校改革担当課長 進学・就職などの進路希望への対応ということでございますが、市立堺高等学校では、生徒の進路の実現に向けまして、大学等への進学や専門性を深める、そういったことなど、生徒希望に応じた幅広い学習を可能とする教育課程を整備いたしております。本校では、3つの学びの系列を設置し、生徒一人一人のニーズに応じて学科の枠を超えて学習をできるようにするなど、きめ細やかにサポートする、そういった教育を進めてまいります。以上です。

◆芝田 委員 ありがとうございます。3つの学びの分野ということで、ご存じのように、サイエンス創造科、そしてまた機械材料創造科と建築インテリア創造科、そしてマネ

ジメント創造科ということですが、この学校案内のパンフレットも見せていただきまして、しっかり授業内容等もカリキュラムを載せて丁寧につくっていただいているなというふうに感心しておりますけれども、今回、ちょっと視点を変えまして、この堺高等学校に民間から校長を招聘したということでありまして、また、それが一つのこの新高等学校の特徴にもなっていると思っておりますが、その点について状況等経過もわかりましたらお聞かせ願いたいと思います。

◎三浦 高校改革担当課長 校長として民間から招聘したということでお尋ねですが、堺市立堺高等学校では、教育や産業の取り巻く環境の急激な変化に対応する学校経営をめざしております。そのため、民間企業で培われた柔軟な発想や企画力、組織経営の手腕など、すぐれたリーダーシップを有し、かつ産業界との連携など、学校の特色づくりを進める上でネットワークを有している人材を登用することとしました。以上でございます。

◆芝田 委員 ご存じのように、シャープ出身の中辻悦郎さんということで、この学校案内のパンフの中に入れておりますチラシにも、企業で培った経験を発揮するということが中辻さんのお話、内容が載っております。若いときには、無限の可能性を信じて何事も全力で努力することが大切です。堺市民が誇り得る市立高校となるよう、私が大学で学んだ工学の素養、会社で経験を積んだ事業運営、米国駐在時代に培った国際感覚のすべてを学校運営に生かし、生徒が思い切り力を出し切れる教育環境を提供できる高校となるよう、新しい高校のしっかりとした土台・礎づくりをしていきたいと考えていますというふうに載っております。

ちょっと残念なことは、この学校の案内のパンフ、チラシには、大体こういうのが一番最初に来て、その学校がめざす理念、また校長、また堺市長のそういう内容が載ってれば、ご存じのように、このチラシ、パンフレットですね、もうちょっと厚みを増してですね、受けられる当人、また保護者に対してももっとインパクトがあったかな。時間的な余裕もなかったというふうに聞いておりますし、そういう意味では、次年度には、しっかりしたものをまたつくっていただきたいなというふうに思っております。

それで、民間人校長が来たからよしということではなくて、そこからスタートでありまして、その民間の校長さんをどのように支えていくかということが大事ななというふうに思っております。公立の学校でも、今や民間の出身の校長先生が登用される機会がふえておりますけれども、ただ、やはり教育現場の中で、なかなか自分の意思が伝わらない。そしてまた、いろんな障害もあるというふうなことでありますけれども、本市としては、民間人校長をどのように支えていくおつもりなのか、お伺いしたいと思います。

◎三浦 高校改革担当課長 民間から迎えた校長を支えるため、教頭とは別に准校長を配置したこと、また校長の経営方針を具現化するため、学校事務室を経営企画室に改め、校長をサポートする組織、また人材を配置したこと、さらに校長のブレーンとして学校顧問を設置するなど、このようなサポートする体制を整えております。以上でございます。

◆芝田 委員 ありがとうございます。また、ここで学校顧問ということで、かなり有

名な方、また、その分野では知名度の高い方がつかれているということではありますが、どのような方がおられますか、ご説明願いたいと思います。

◎三浦 高校改革担当課長 学校顧問でございますが、市立堺高等学校の教育全般にかかわりまして、専門的な立場からアドバイスを行い、校長の学校運営等を支える、そういった学校顧問には、大学教授や企業の役員、また工業デザイナーの方、そういった方々など、大学、産業界から幅広く活躍されている7名の方々にご就任をいただいております。以上でございます。

◆芝田 委員 最後ですけれども、この市立堺高等学校をどのような高校にしていくのか、またどのようにするのか、その決意を最後当局にお伺いして質問を終わりたいと思いますが。

◎木谷 教育委員会総務部副理事 決意ということでございますが、市立堺高等学校は教育活性化プランにおける、縦につながる教育の一翼を担う市立高等学校として、小・中学校での教育成果を発展させ、生徒の夢に限りなくチャレンジできる力を育成し、進路実現がかなえられるよう、教育内容、教育環境の充実を図るとともに、時代や社会のニーズを的確にとらえた教育を進めてまいります。市立高校だからこそできる教育を行い、本市が誇れるオンリーワンの高等学校として新たな伝統を築いてまいります。以上でございます。

◆芝田 委員 最後に要望でありますけれども、縦につながる教育ということで、活性化プランの中にもお示しのとおり、堺の中で唯一の市立高校でありますので、初年度、また2年・3年目がとても大事だと思いますので、しっかり全力で取り組んでいただきたいと、このように思います。

それとまた、先ほど言いましたように、民間校長でありますので、やはりいろいろ現場でいろんな体制をおしきでありますけれども、しっかりやはりコミュニケーションをとりながら、校長が進めたい、また執行部がしっかり、生徒が主役でありますので、しっかりその辺のためにどうしたらいいのかということも協議もしっかりしていただきたいな、こういうふうに思っておりますし、どうかよろしくお願い申し上げます。

それと、堀川の奇跡ということで、京都市立堀川高校の話題、皆さん、現場では特にご存じだと思いますけれども、進学だけが先に行っておりますけれども、ご存じのように、堀川の奇跡と呼ばれる公立高校があると、京都市立堀川高校、2001年に6人だった国公立大学の現役合格者を1年で100人ふやし、過去3年間、地元京都大学の合格者を毎年30人以上輩出するという躍進ぶりであります。この雑誌の記事の中なんですけれども、教師と生徒の自発性が大きな躍進を生んだということでもありますし、またNHKのテレビでも私見せていただきましたけれども、荒瀬校長が教頭で赴任されて、そこから改革が始まったということでもあります。

ご存じのように、進学ということで、探究科という新しい科を設置しまして、いろいろ改革をしながら、また大学院生を、そういう高校の教育現場に来ていただいて、その中で

学ぶ、また探究するということからスタートして、そういった高校にしていったと、単なる進学だけじゃなくて、やはりこの間のNHKのテレビでは、今年のテレビでは、1人の女子生徒に京都で行われます国際会議の中心的な役割を担ってもらい、しっかりその中で担当の教員も決めながら、荒瀬校長は、ずっとじゃなくて、場面場面、大事な場面で触れ合いながら、しっかり激励していくという中で、見事に国際会議の中で、この堀川高校のそういった中心の生徒を中心に、そういったプロジェクトで大きな成果を得たと。またその中で一番大事な人間形成、また自分の可能性を引き出したということが、私はすごく感動的でありました。

最後にこの雑誌の中で荒瀬校長が言われていることを引用して終わりたいと思います。

子どもは育てたように育つ。ネガティブに言えば、育てたようにしか育たない。生徒には可能性がいっぱいである。本人が気づいていないこともいっぱいある。それを引き出す、それが学校でしょう。現状で完成品を求めて可能性を否定してしまっただけ。今いい子でいなさい、次の瞬間もいい子でいなさい、なんて無理ですよ。私たちは1年生で入ってきた生徒が卒業するときの姿を知っていますからね。ああなるんだから、今急いで完成品である必要はない。いろんなことにぶつかって、時には逃げ回ったりしながら、みんなそうして大きくなるんでしょう。人と交わって無傷で生きている人なんて、そう多くはないと思いますよ。社会の中で人とかかわって自立をめざして生きていく。そのためのプロセスを体験するのが高校生ですということで、今委員会、また予算の審査会でもですね、学力調査の、小・中の学力低下の話題が多くありますけれども、高校教育をもう一度見直し、しっかりまた、この市立堺高等学校がすばらしい本市の高校改革の、教育改革の基址になるよう祈りまして、私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。